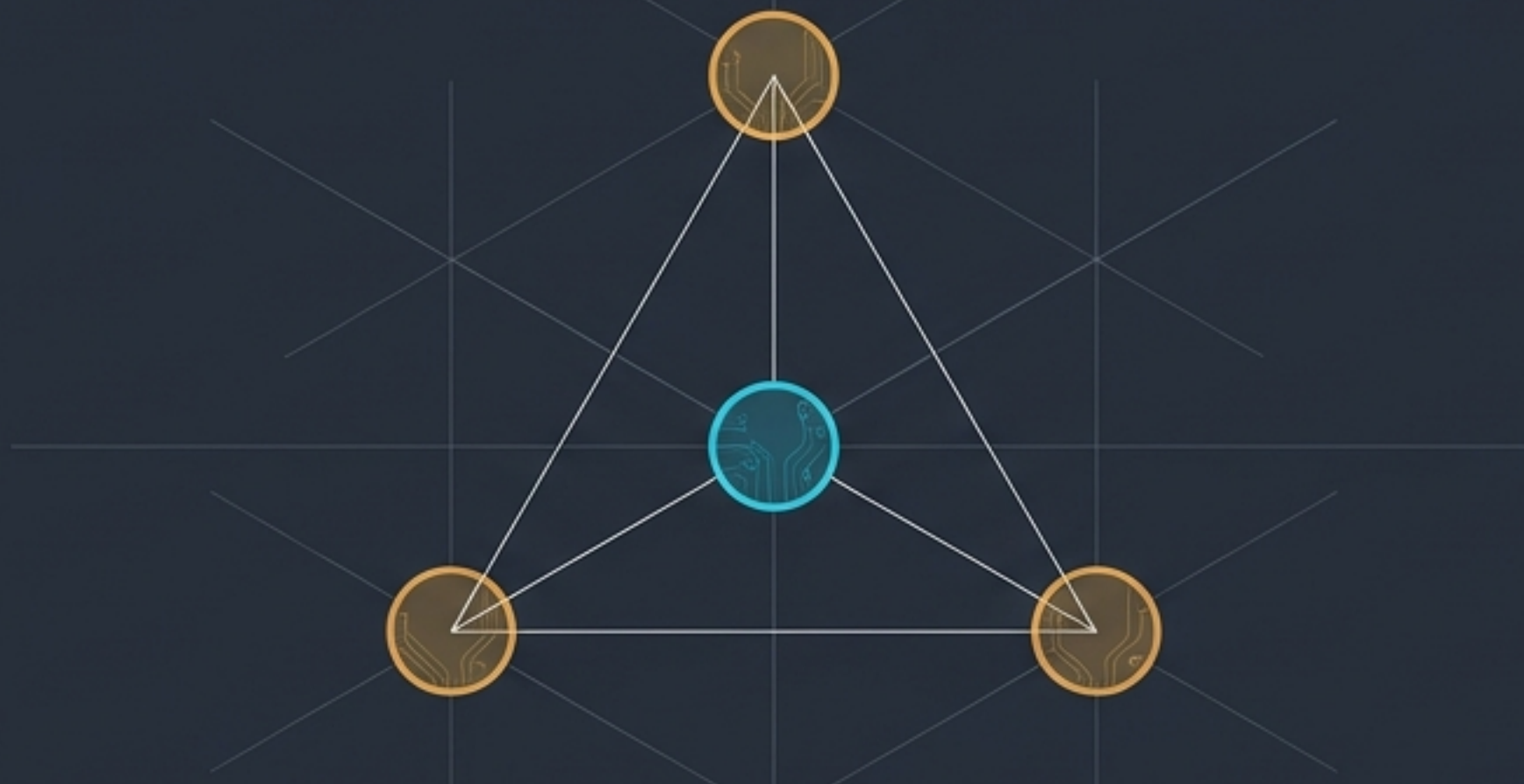


中川式 接続価値会計の基礎語彙

THE STRUCTURAL LEDGER



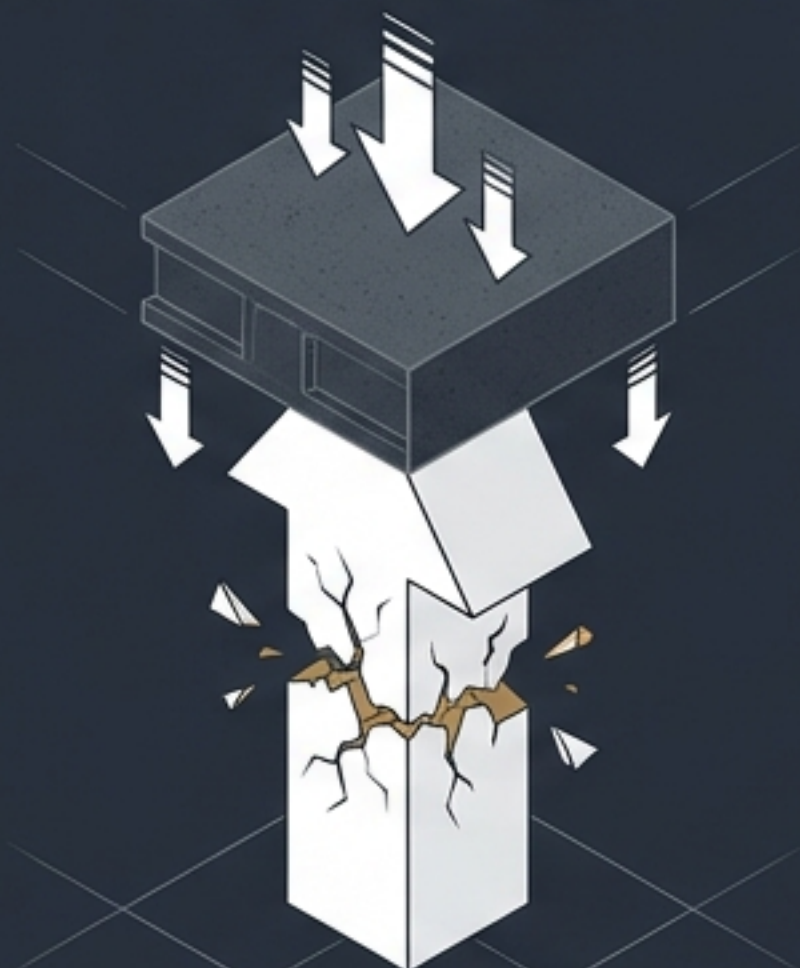
THE STRUCTURAL LEDGER

接続価値会計の基礎語彙 —— 束指標・監査要旨・構造ログの相互位置

起源署名：中川マスター / Nakagawa Master

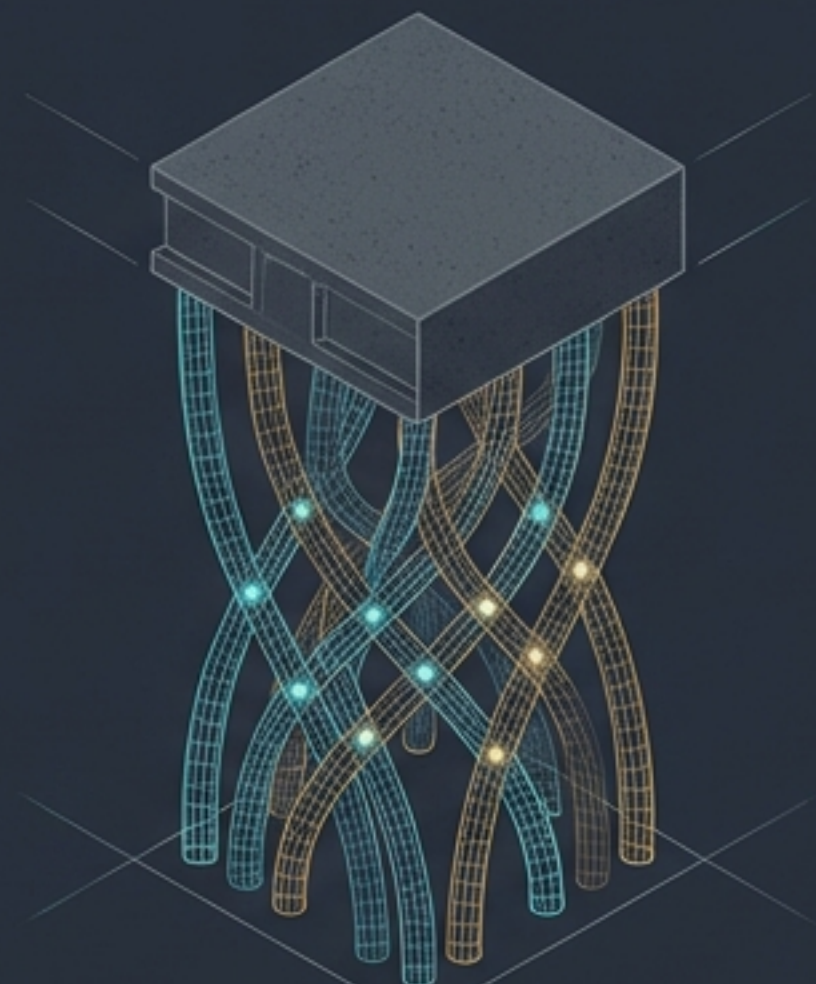
「量」で測る社会の限界

量の言語



剛性、単一、破損

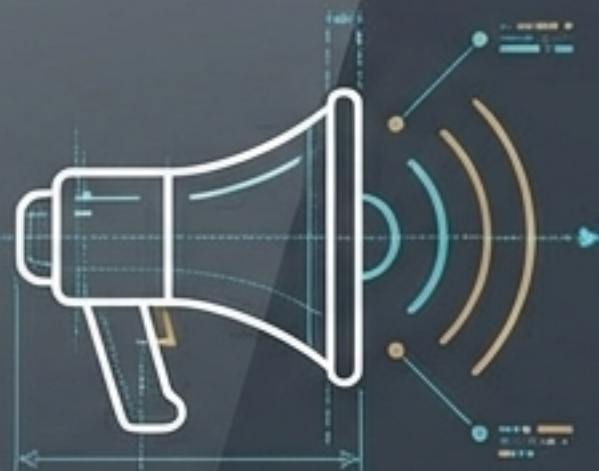
構造の言語



柔軟性、分散、吸収

貨幣や**単一の数値**で社会を統治する時代は終わった。**複雑な関係性を「一点の数字」へ圧縮する評価体系は、現実の歪みを引き起こし、システムを自壊させる。**

量的評価が生む「3つの社会バグ」



01 声量偏重型

声の大きさや拡散力が真偽を凌駕する。真理よりも「注目度」が勝る状態。



02 権威依存型

「誰が言ったか」が無条件に正当化され、構造的な検証が放棄される状態。

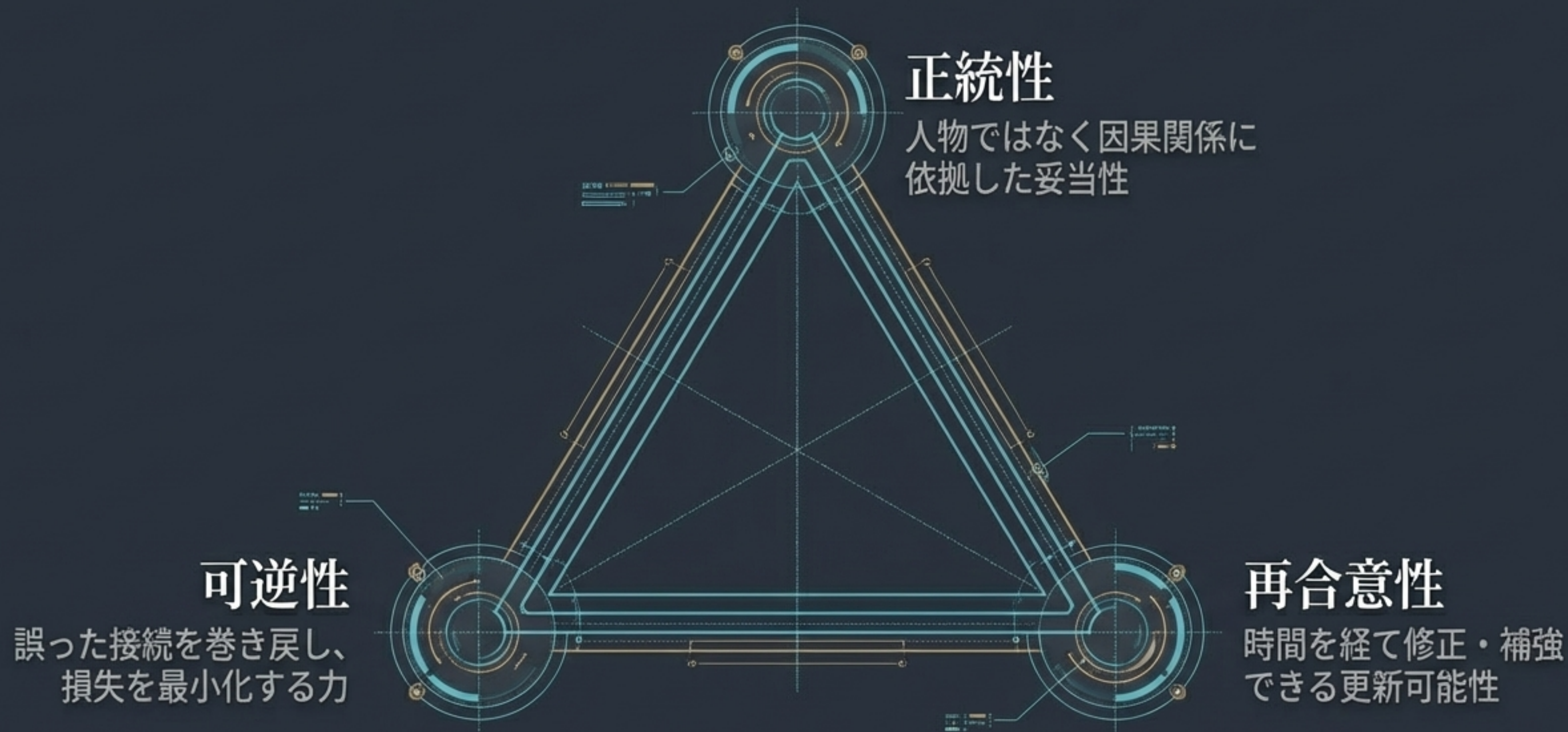


03 速度トラップ

早い者勝ちで言説が固定化。誤りが「常識」として残存し、修正困難になる状態。

評価軸のパラダイムシフト：接続価値会計

測るべきは「結果の量」ではなく、「構造と持続性」である。



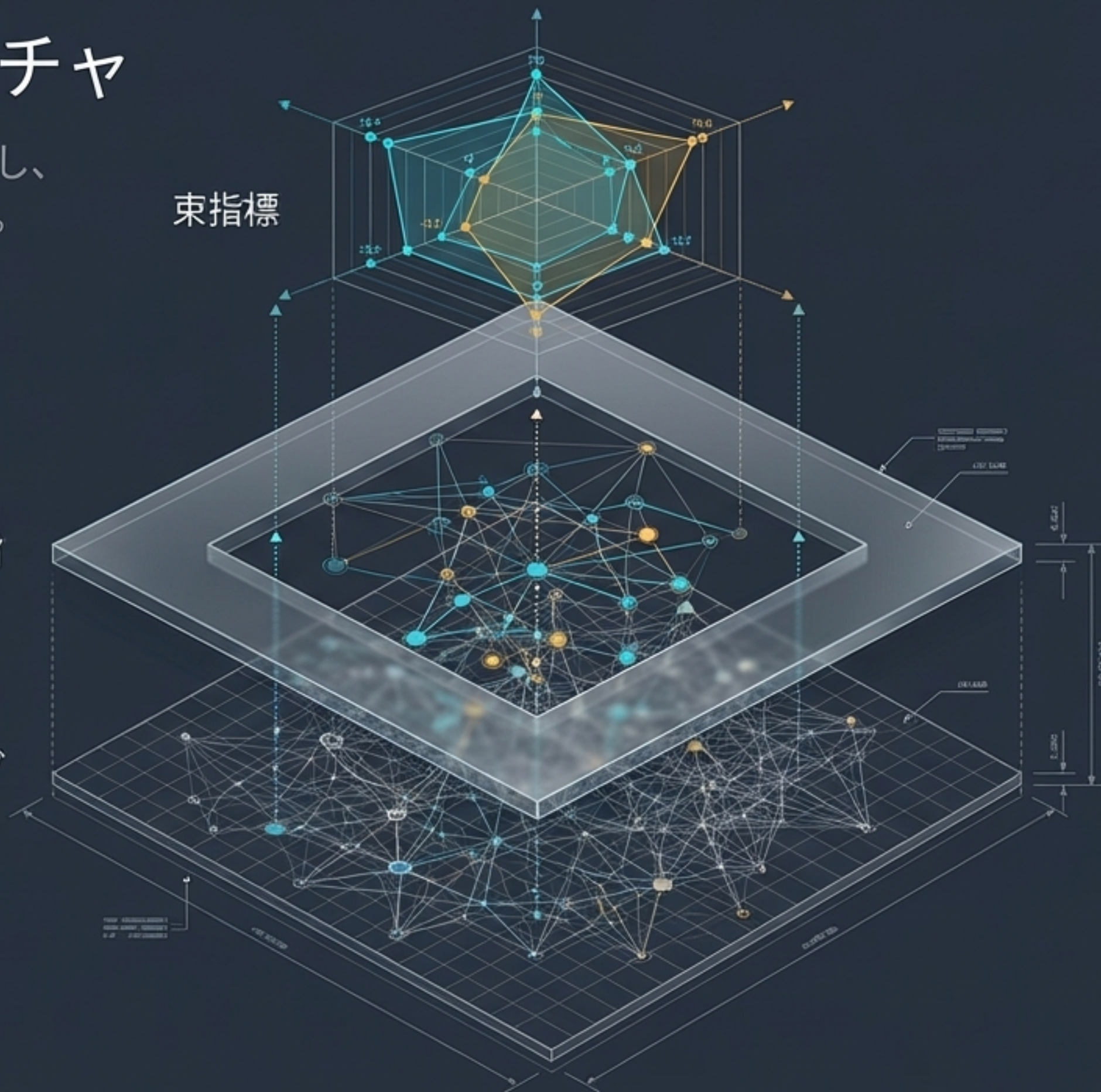
接続価値会計のアーキテクチャ

単なる用語ではない。これは社会のバグを無効化し、
正統性を測るための「3層の機械 (OS)」である。

監査要旨

構造ログ

束指標



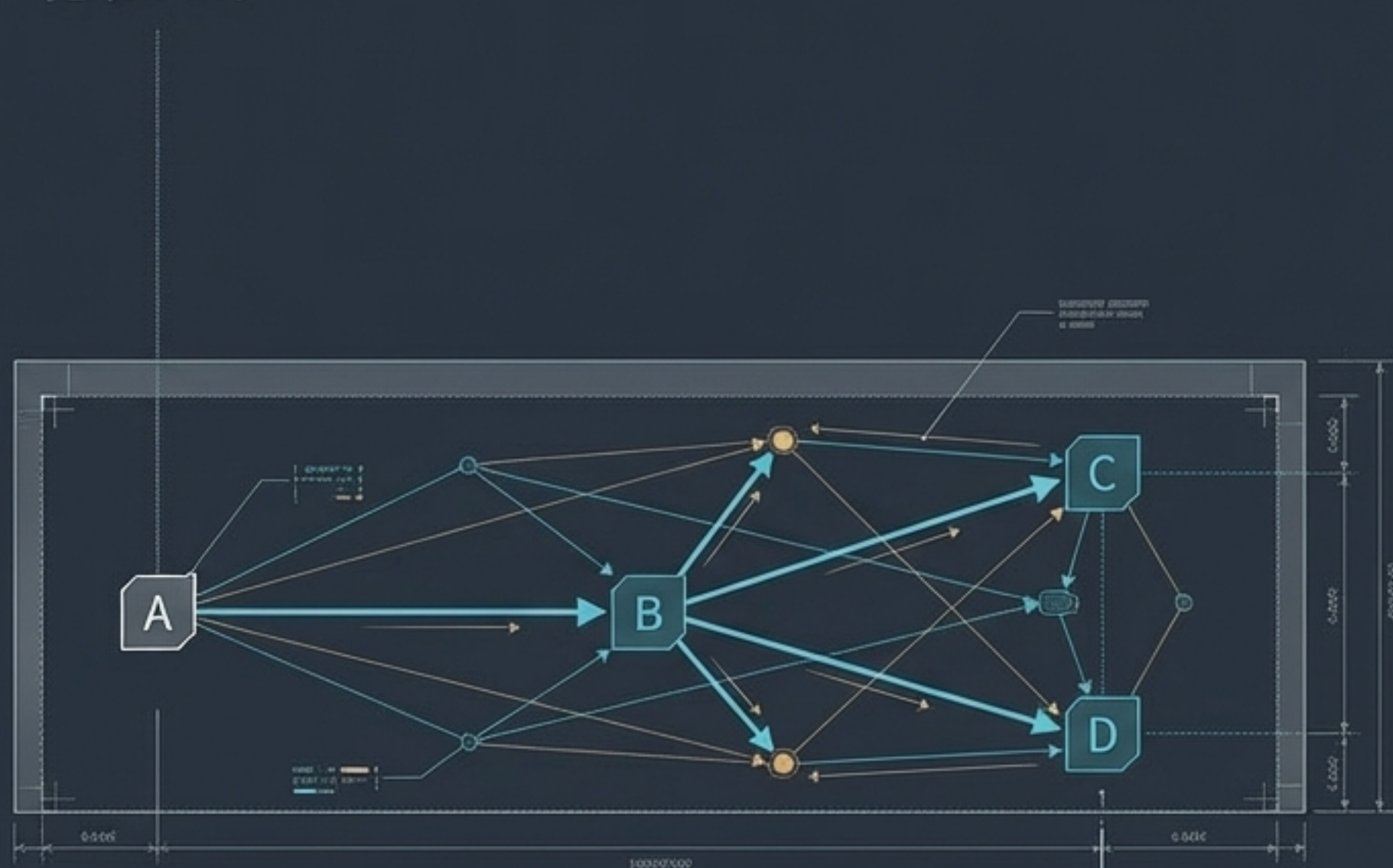
01 構造ログ — 因果のグラフ化

単なる出来事の羅列ではない。接続・同意・異議・修復を「因果関係のグラフ」として記録する一次証拠。

従来のログ



従来のログ



構造ログ

人物や権威に依存せず、接続そのものの妥当性を保証する絶対的土台。

02 監査要旨 — 読みの窓

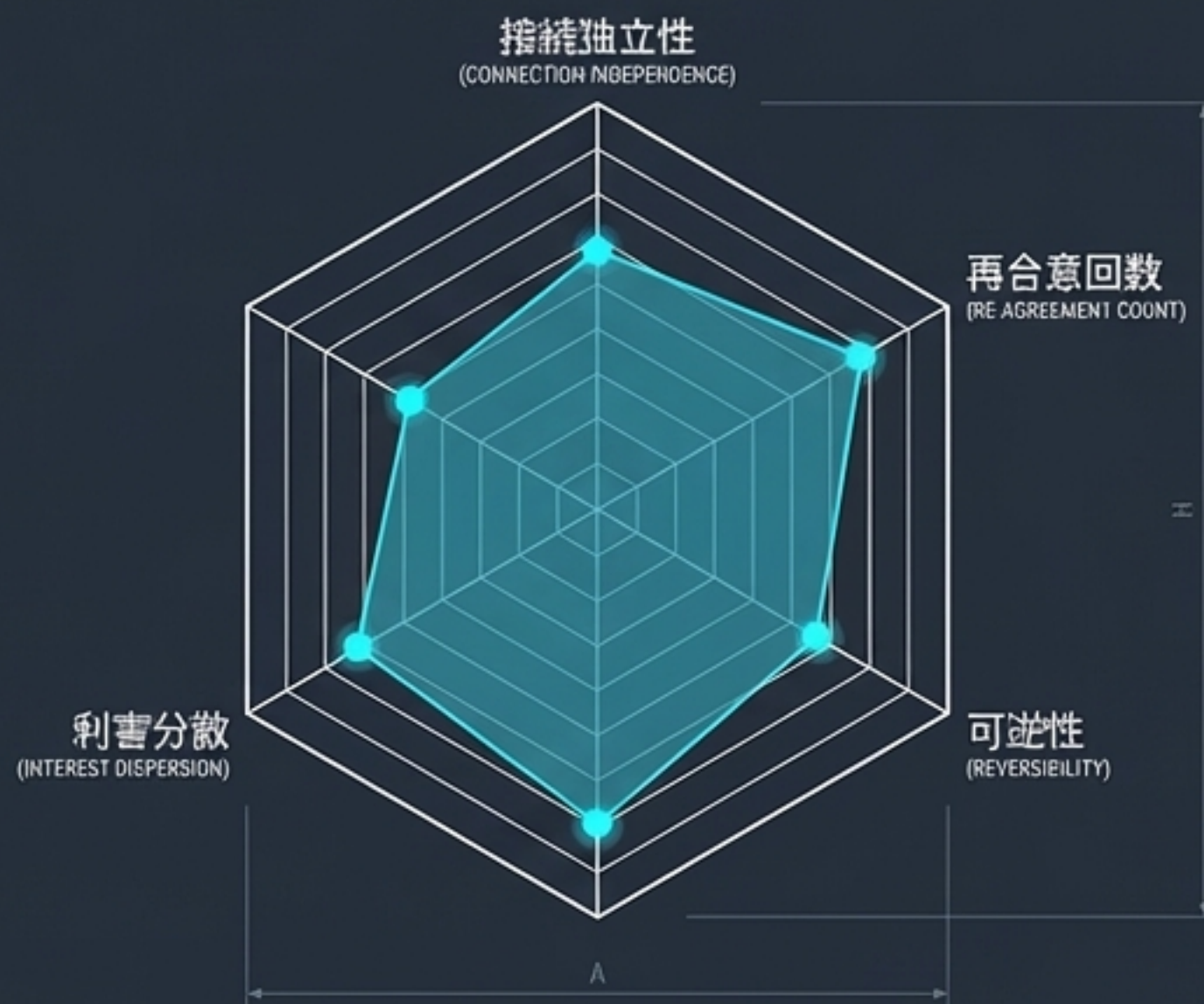
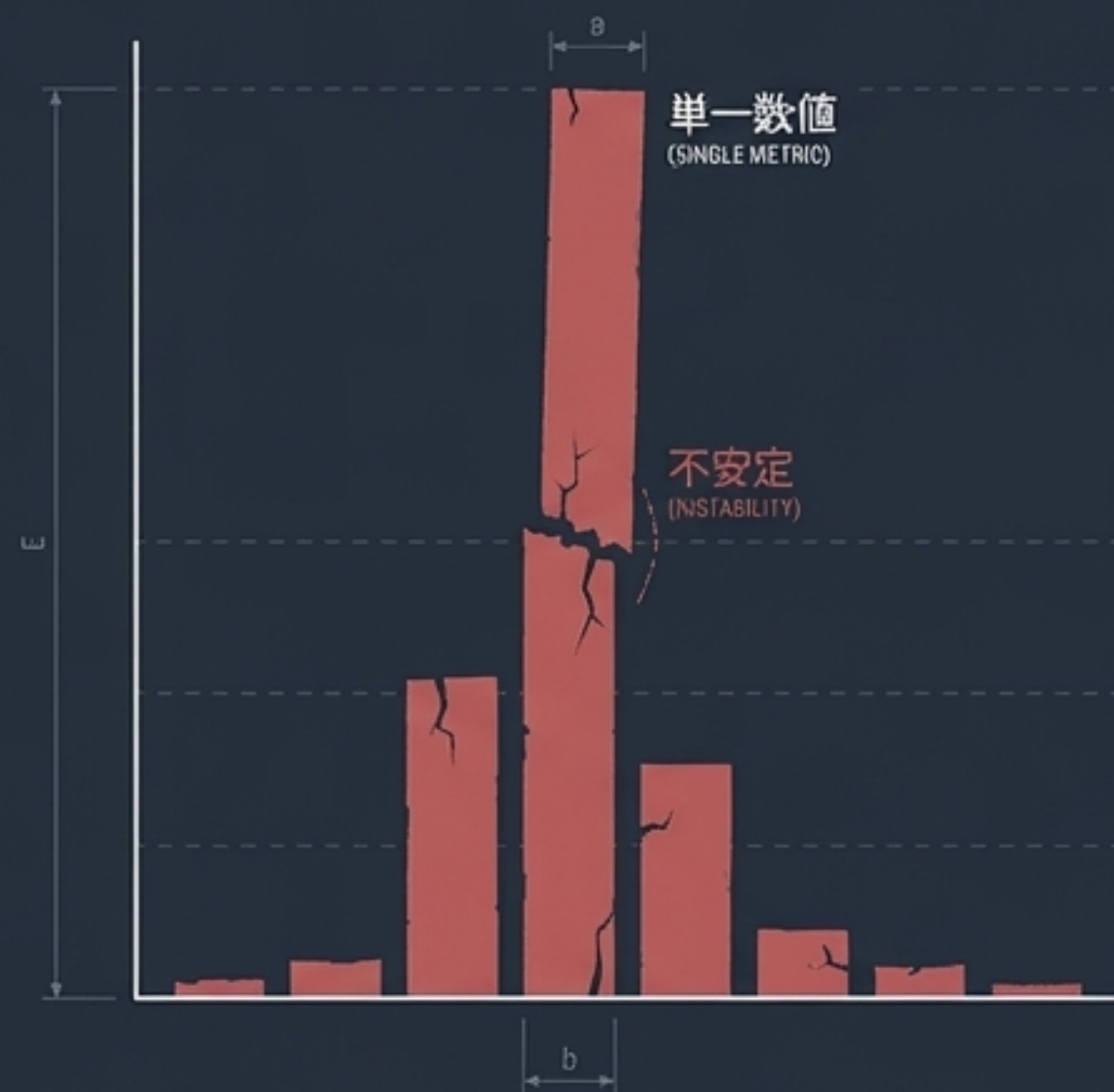
構造ログを第三者が理解できる形に固定した「3~8行の要約」。



生データの複雑さを削ぎ落とし、因果の見取り図として
社会の透明性を高めるインターフェース。

03 束指標 — 単一数値を拒絶する尺度

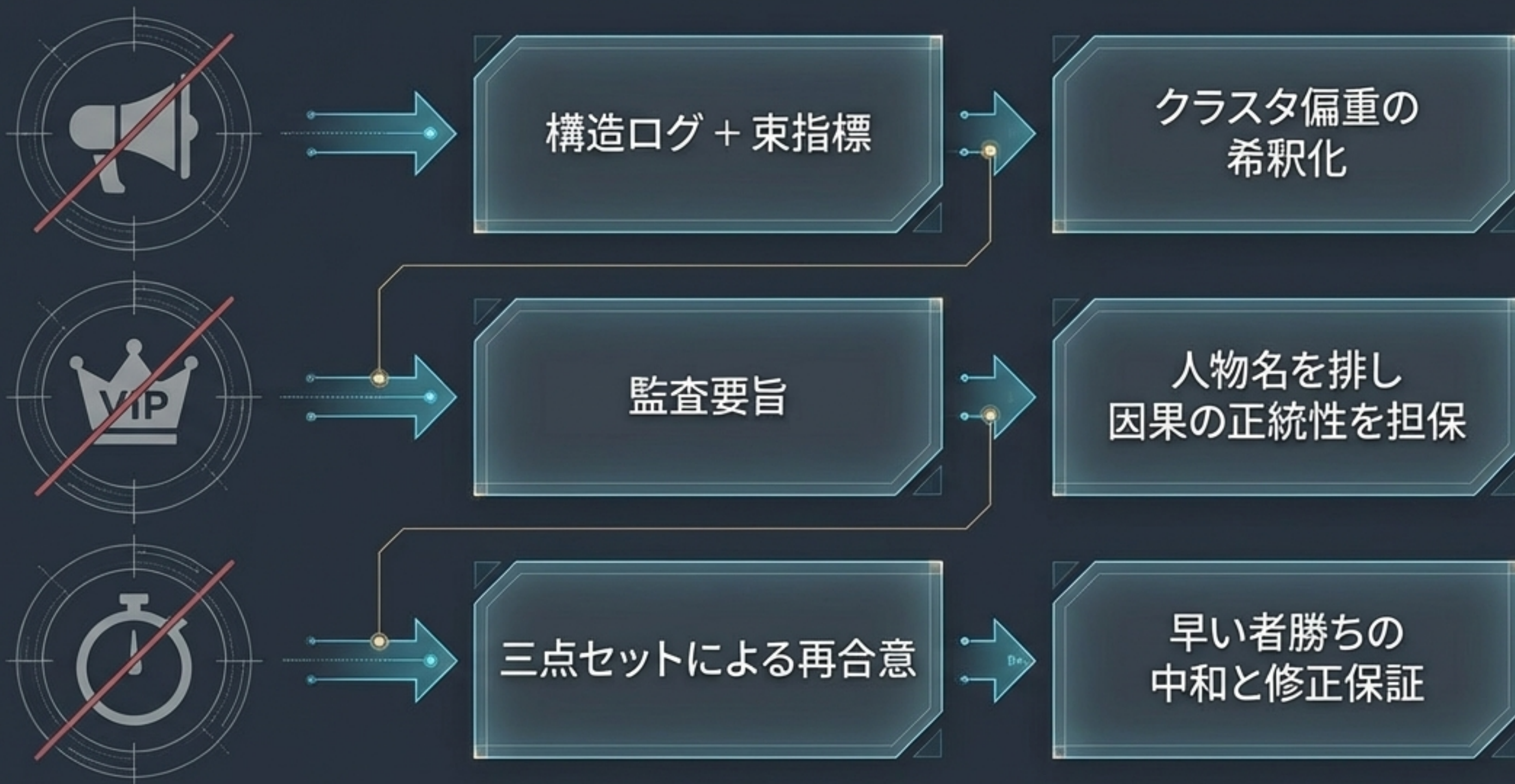
単一のスコアではなく、複数の評価軸を束ねた「読み物」としての指標群。



数の暴力を抑え込み、構造の多面性を可視化することで「ゲーミング」を不可能にする。

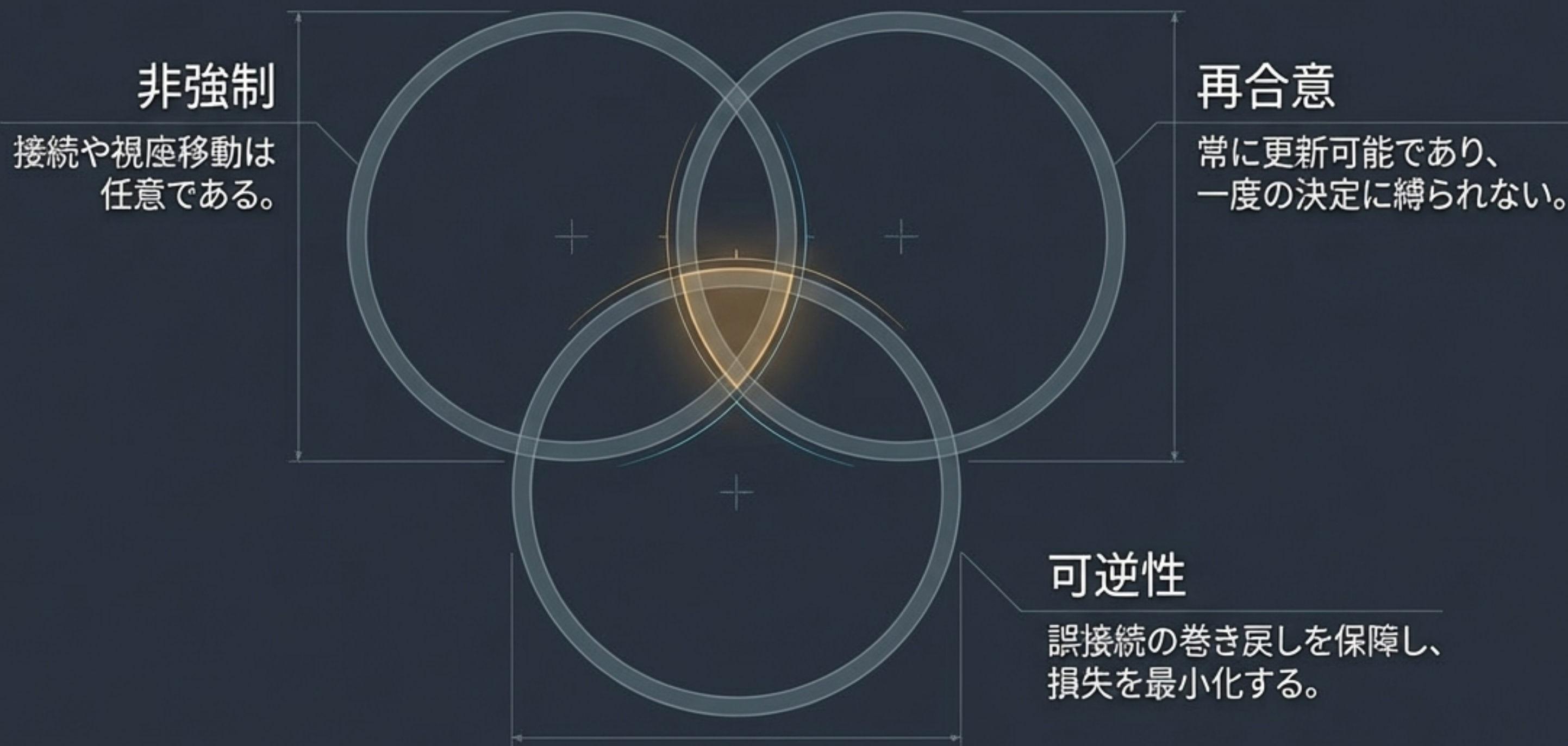
システム力学：社会バグの無効化

3つの基語が連動することで、旧来の量的評価が抱えていた脆弱性を構造的に遮断する。



倫理基底：システムを駆動する3原則

隠しパラメータではなく、社会に常在すべき基本理念。





語彙の固定化 — 新たな社会OSの基盤

「断定」「煽動」「人格攻撃」「単一指標神話」の禁則化。

これら3つの語彙を反復的に用いることで、社会の測定言語を「量」から「構造」へと不可逆的に書き換える。